

仙臺の書家は龍の字を衝立になすり書きしてゐました。

福岡の驛の前に、東長寺と云ふ弘法大師の居たと云ふ寺があります。

大師は才子でありまして、ダ、支店長はお上りやした。

丸山の妹は親類の小母さんに密柑を買つて來たのです、凡ては雨の下の出來事であります。

はだしまゐりをしてゐた男も、銅貨を五錢紙に包んで、お寺の後家さんがくれたのも、焼芋を

二片お内儀さんに寄附して貰つたのも、

東長寺の護摩堂には、油を管めるドブネズミが居ります、支那人の卵の殻が幾個も壊はされて  
グチャ／＼に踏み付けられてゐました。

障子に娘の影がうつります。

廿一日の大師講に、カ、さんは來られませんが、御馳走を持つて來ました。

十二三人のお講者が、飽満した性慾の上へ念佛を誦はせたいので、おすしをドツサリつけるの  
です。

私はそれをたべて、翌日鳥栖まで汽車に乘りました。